

今年こそ

第二学生ホール・二百名新寮〔第一期分〕をかちとろう!

学生施設の貧困は今やその極限にある

学舎建設のつらさが、杉本のキャンパスをめぐるがごと共に、家政部、理学部、部研究室がその全容を我々の前に現わしつゝある。学舎の統合は、ほゞ完了しようとしている。

しかし、これをもって我々が幾度となく耳にしてきた、「大阪市立貧困大学」「杉本原野」の正名は返上された、と言ひ得るだろうか? 毎朝、登校の際、理学部横に目にする杉本寮は、学舎とはうらうらに、椿を支えにようやく立ち続けている有様である。昼食時、学生ホールの混雑は、通勤ラッシュに勝るとも劣らない状況を呈している。サークル部室はその数において未だ不充分であり、内部設備の点でも不備が目立っている。

もはや答は明らかであろう。巧名は断じて返上されたとは言えない。我々の不断の生活の場である学園は、学問・研究・サークル活動に必要とするものとする義務が、今や我々にとって緊急の課題となっている。

今年こそや2学生ホール、二百名新寮(第一期分)をかちとろう!

現在、我々にとって、基本的に、且つ緊急を要する要求は、二百名新寮(第一期分)、や2学生ホールの建設である。現在の杉本寮、都凡寮は、合わせて64名の収容力しかなく、家屋は老朽化し、昼間でも電燈を必要としている。すでに寮建設のための用地は、数年前より信太山に確保されている。新寮建設のための条件は全て整っている。唯一の障害は、自治会と大学協議会との間に、寮規約が合意していない。早急に、学生側を代表する自治会と、大学側を代表する大学協議会との間に民主的な寮規約が結ばれるならば、新寮の実現は早期に果たされるのである。中核の指導のもとに、寮生を中心として、新寮建設推進委員会を設置し、広範な運動を展開し、今年こそ二百名新寮をかちとろう!

更に、現在の学生ホール(教養)と、専門食堂では、四千名の学生が利用するには、決定的に不足している。サークル、研究会活動の保障するためにも、毎日の我々の生活をつらみのあるものとするためにも、や2学生ホールの建設は必須のものである。

二百名新寮、や2学生ホールの建設をかちとること、これこそが、我々の今年の学園の課題である。

民主的サークル部室管理規約を

作りあげよう

統一会議(民学同派)